

第2章 燕市の障がいのある人の状況

1 障がい福祉の状況

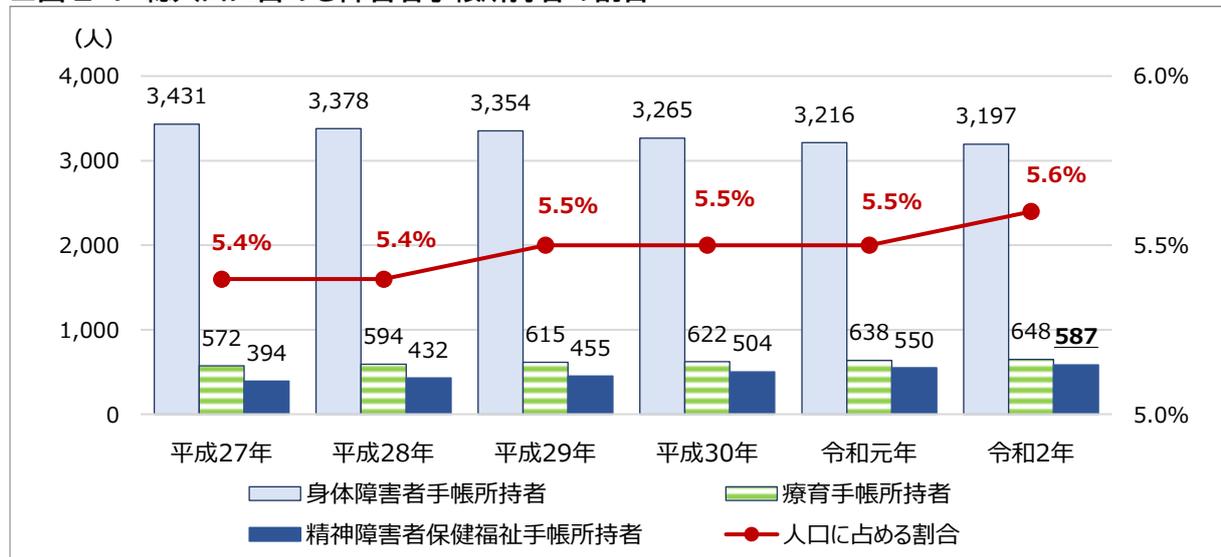
(1)障がいのある人の状況

① 障害者手帳所持者の状況

障害者手帳所持者数はほぼ横ばいで推移していますが、総人口が減少しているため、総人口に占める割合は微増傾向にあります。

障害者手帳の種類別にみると、身体障がい者数が減少している一方で、知的障がい者、精神障がい者は増加傾向にあり、特に精神障がい者数は令和2年4月1日現在587人となっています。

■図 2-1 総人口に占める障害者手帳所持者の割合



■表 2-1 総人口に占める障害者手帳所持者総数の推移

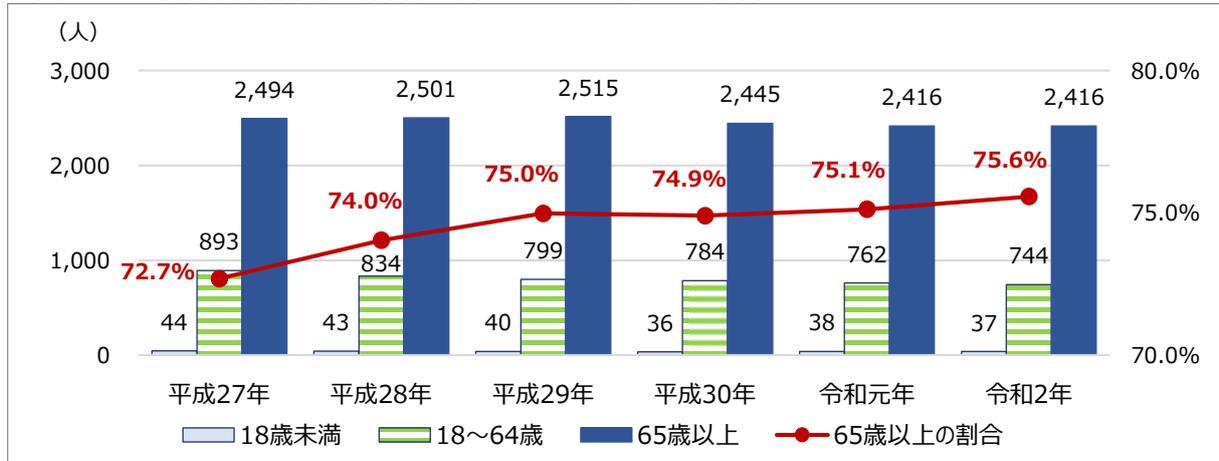
区分	第4期			第5期		
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
総人口	81,917人	81,465人	80,909人	80,091人	79,382人	78,933人
障害者手帳所持者数	4,397人	4,404人	4,424人	4,391人	4,404人	4,432人
身体障害者手帳	3,431人	3,378人	3,354人	3,265人	3,216人	3,197人
療育手帳	572人	594人	615人	622人	638人	648人
精神障害者保健福祉手帳	394人	432人	455人	504人	550人	587人
人口に占める割合	5.4%	5.4%	5.5%	5.5%	5.5%	5.6%

資料：住民基本台帳・障害者手帳台帳(各年4月1日現在)

② 身体障がいのある人の状況

身体障がいのある人の年齢別の推移をみると、65歳以上の割合が増加しています。

■図 2-2 身体障害者手帳所持者に占める 65 歳以上の割合



■表 2-2 身体障がい者の年齢別推移

区分	第4期			第5期		
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
手帳所持者数	3,431人	3,378人	3,354人	3,265人	3,216人	3,197人
18歳未満	44人	43人	40人	36人	38人	37人
18~64歳	893人	834人	799人	784人	762人	744人
65歳以上	2,494人	2,501人	2,515人	2,445人	2,416人	2,416人
65歳以上の割合	72.7%	74.0%	75.0%	74.9%	75.1%	75.6%

資料：身体障害者手帳台帳(各年4月1日現在)

障がいの部位別の状況をみると、視覚障がい、音声・言語・そしゃく機能障がいはほぼ横ばいで、内部障がいが増加傾向にあります。

■表 2-3 身体障がい者の障がい部位別の推移

区分	第4期			第5期		
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
手帳所持者数	3,431人	3,378人	3,354人	3,265人	3,216人	3,197人
視覚障がい	172人	170人	167人	162人	171人	168人
聴覚・平衡機能障がい	333人	339人	339人	322人	309人	313人
音声・言語・そしゃく機能障がい	44人	42人	44人	42人	42人	43人
肢体不自由	2,170人	2,106人	2,063人	1,993人	1,937人	1,902人
内部障がい	712人	721人	741人	746人	757人	771人

資料：身体障害者手帳台帳(各年4月1日現在)

身体障害者手帳の等級の状況を見ると、1級が最も多く、令和2年4月1日現在で917人(全体の28.7%)となっています。

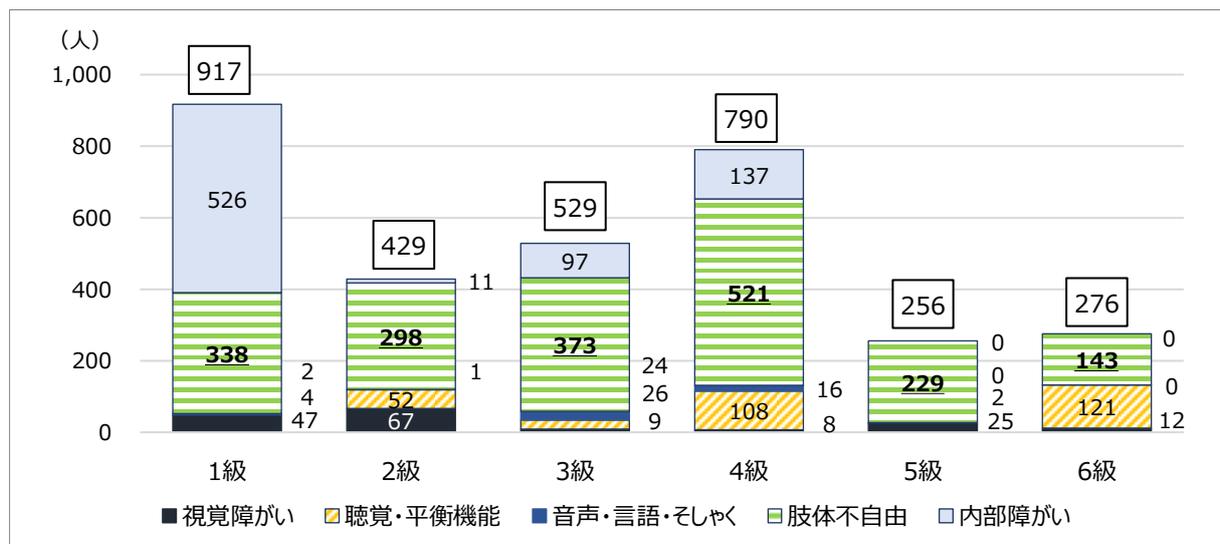
■表 2-4 身体障害者手帳の等級別の推移

区分	第4期			第5期		
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
手帳所持者数	3,431人	3,378人	3,354人	3,265人	3,216人	3,197人
1級	921人	913人	932人	912人	910人	917人
2級	453人	455人	454人	440人	437人	429人
3級	594人	575人	566人	552人	534人	529人
4級	838人	831人	818人	800人	785人	790人
5級	295人	280人	273人	262人	266人	256人
6級	330人	324人	311人	299人	284人	276人

資料:身体障害者手帳台帳(各年4月1日現在)

等級別に障がいの部位をみると、どの等級でも肢体不自由の割合が高くなっています。

■図 2-3 身体障がい者の障がい部位別の等級の状況



■表 2-5 身体障がい者の障がい部位別の等級の状況

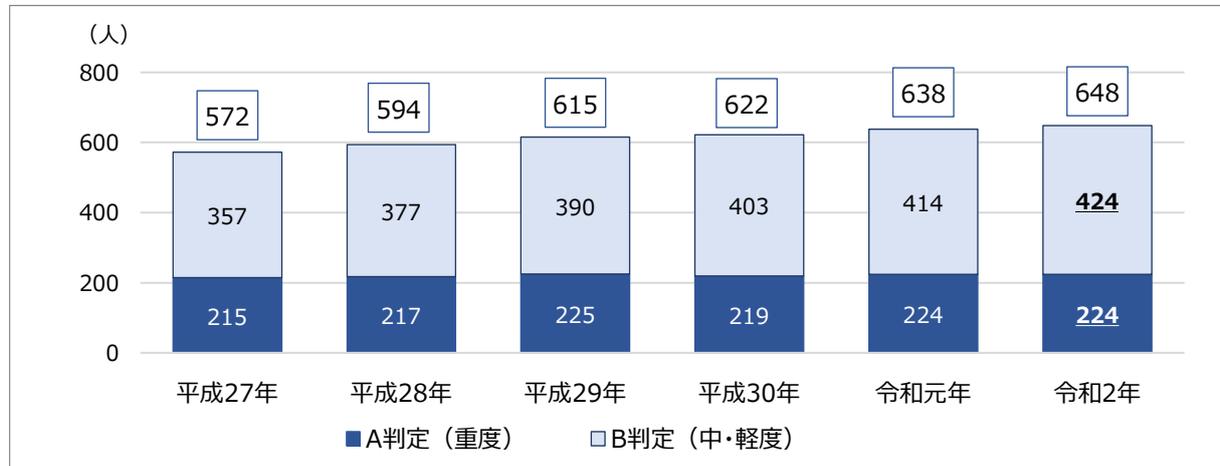
区分	1級	2級	3級	4級	5級	6級
視覚障がい	47人	67人	9人	8人	25人	12人
聴覚・平衡機能	4人	52人	26人	108人	2人	121人
音声・言語・そしゃく	2人	1人	24人	16人	0人	0人
肢体不自由	338人	298人	373人	521人	229人	143人
内部障がい	526人	11人	97人	137人	0人	0人
合計	917人	429人	529人	790人	256人	276人

資料:身体障害者手帳台帳(令和2年4月1日現在)

③ 知的障がいのある人の状況

療育手帳所持者をみると、A判定(重度)はほぼ横ばいですが、B判定(中・軽度)は増加傾向にあります。令和2年4月1日現在、A判定が224人(34.6%)、B判定が424人(65.4%)となっています。

■図 2-4 療育手帳の判定別の推移



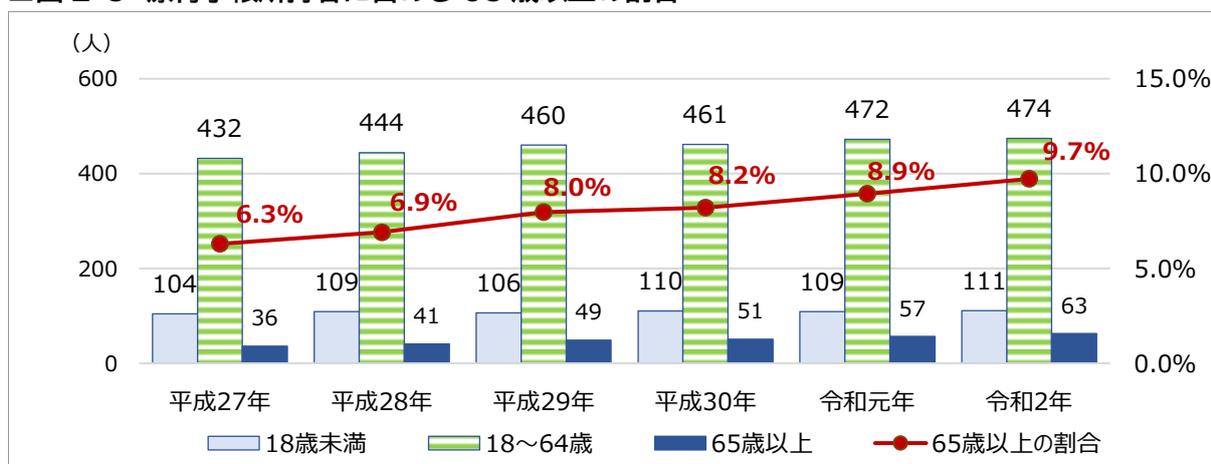
■表 2-6 療育手帳の判定別の推移

区分	第4期			第5期		
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
手帳所持者数	572人	594人	615人	622人	638人	648人
A判定(重度)	215人	217人	225人	219人	224人	224人
B判定(中・軽度)	357人	377人	390人	403人	414人	424人

資料:療育手帳台帳(各年4月1日現在)

療育手帳所持者の65歳以上の割合は増加傾向にあります。

■図 2-5 療育手帳所持者に占める 65 歳以上の割合



■表 2-7 知的障がい者の年齢別推移

区分	第4期			第5期		
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
手帳所持者数	572人	594人	615人	622人	638人	648人
18歳未満	104人	109人	106人	110人	109人	111人
18～64歳	432人	444人	460人	461人	472人	474人
65歳以上	36人	41人	49人	51人	57人	63人
65歳以上の割合	6.3%	6.9%	8.0%	8.2%	8.9%	9.7%

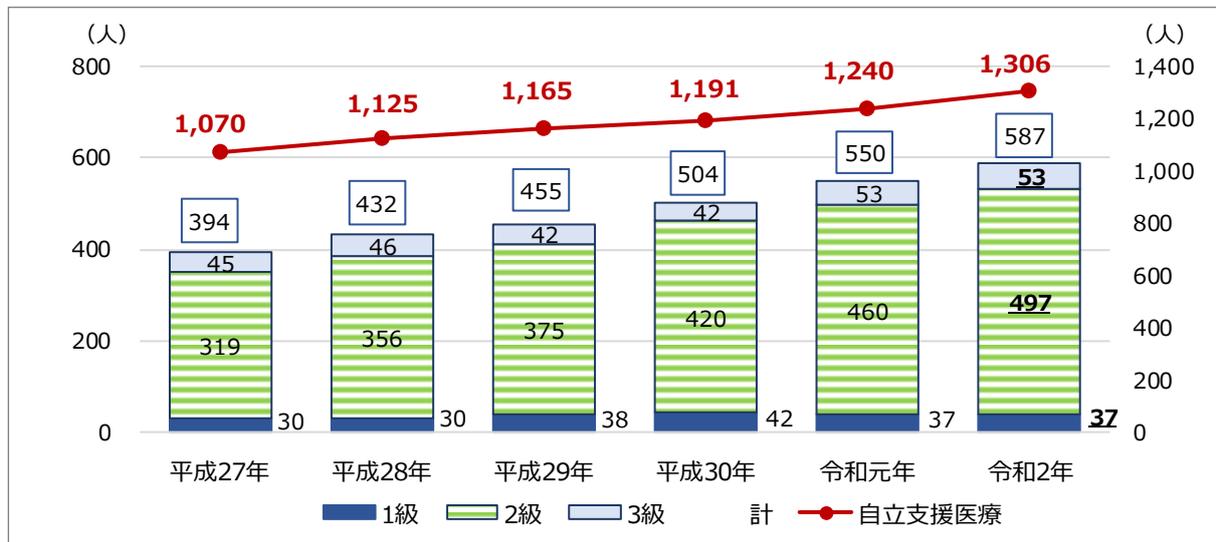
資料：療育手帳台帳(各年4月1日現在)

④ 精神障がいのある人及び自立支援医療受給者の状況

精神障害者保健福祉手帳の所持者数は2級と3級が増加傾向にあります。令和2年4月1日現在、2級が497人で84.7%を占めています。1級は37人(6.3%)、3級は53人(9.0%)となっています。

また、精神科または心療内科等に通院している人が利用できる自立支援医療(精神通院医療)の受給者数も増加傾向にあり、令和2年4月1日現在1,306人となっています。

■図 2-6 精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療受給者の推移



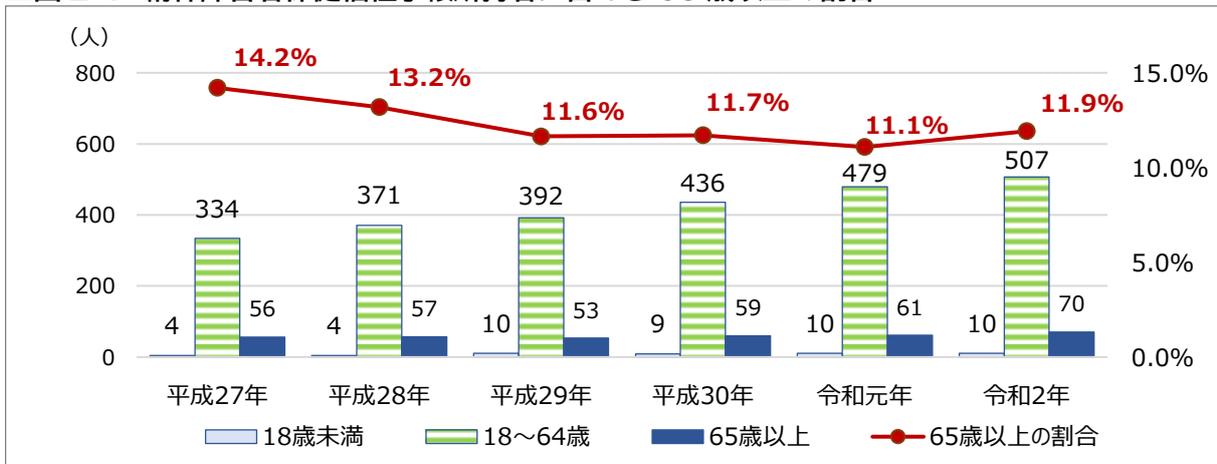
■表 2-8 精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療受給者の推移

区分	第4期			第5期		
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
手帳所持者数	394人	432人	455人	504人	550人	587人
1級	30人	30人	38人	42人	37人	37人
2級	319人	356人	375人	420人	460人	497人
3級	45人	46人	42人	42人	53人	53人
自立支援医療	1,070人	1,125人	1,165人	1,191人	1,240人	1,306人

資料：精神障害者保健福祉手帳台帳(各年4月1日現在)

精神障害者保健福祉手帳所持者の65歳以上の割合は、平成29年からほぼ横ばいとなっています。

■図 2-7 精神障害者保健福祉手帳所持者に占める 65 歳以上の割合



■表 2-9 精神障がい者の年齢別推移

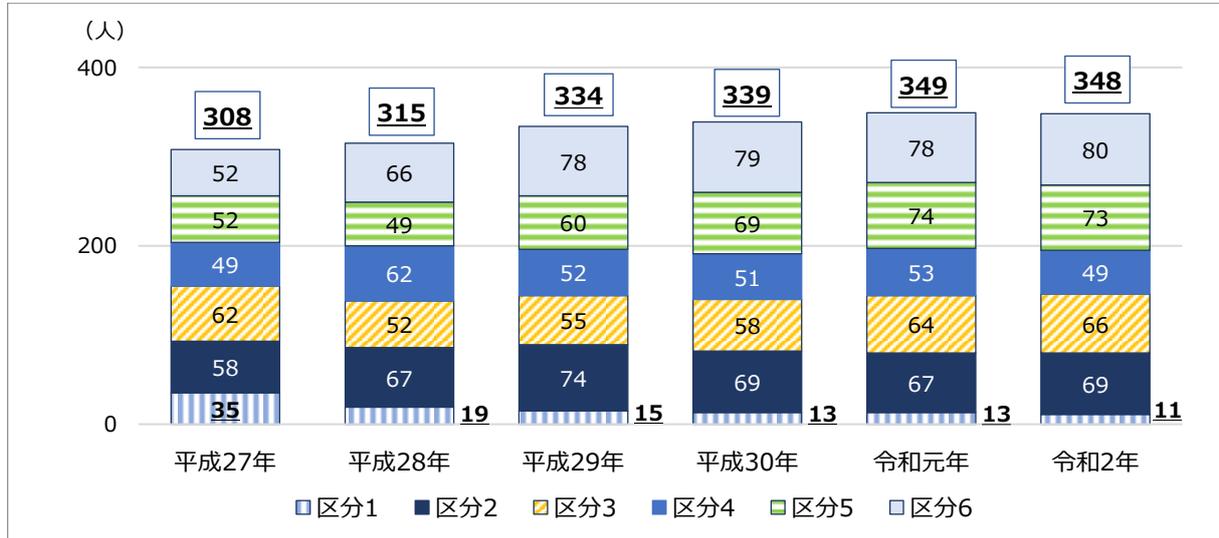
区分	第4期			第5期		
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
手帳所持者数	394人	432人	455人	504人	550人	587人
18歳未満	4人	4人	10人	9人	10人	10人
18~64歳	334人	371人	392人	436人	479人	507人
65歳以上	56人	57人	53人	59人	61人	70人
65歳以上の割合	14.2%	13.2%	11.6%	11.7%	11.1%	11.9%

資料：精神障害者保健福祉手帳台帳(各年4月1日現在)

⑤ 障害支援区分別の認定者の状況

障害者総合支援法では、公平な障害福祉サービス利用を実現するために、障害福祉サービスの必要性を明確に判断するための「障害支援区分」を設け、区分1から区分6までの6段階に分けて認定します。区分6が最も支援が必要と認定された人となっています。障害支援区分認定者数は増加傾向にあります。

■図 2-8 障害支援区分認定者の推移



■表 2-10 障害支援区分認定者数の推移(実人数)

区分	第4期			第5期		
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
認定者数	308人	315人	334人	339人	349人	348人
区分1	35人	19人	15人	13人	13人	11人
区分2	58人	67人	74人	69人	67人	69人
区分3	62人	52人	55人	58人	64人	66人
区分4	49人	62人	52人	51人	53人	49人
区分5	52人	49人	60人	69人	74人	73人
区分6	52人	66人	78人	79人	78人	80人

資料:障害福祉サービス台帳(各年4月1日現在)

障がいの種類別にみると、認定者数が最も多いのは知的障がいで187人となっています。身体障がいで区分6の割合が高くなっています。

■表 2-11 障がいの種類別の障害支援区分認定者数

区分	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
身体障がい	4人	8人	15人	15人	25人	56人	123人
知的障がい	4人	41人	40人	32人	47人	23人	187人
精神障がい	3人	20人	11人	2人	1人	1人	38人

資料:障害福祉サービス台帳(令和2年4月1日現在)

2 アンケート調査の概要

(1)調査の概要

調査目的

令和3年度を初年度とする「燕市障がい者基本計画・第6期燕市障がい福祉計画・第2期燕市障がい児福祉計画」を策定するため、18～64歳の障がいのある人と、18歳未満の障がいのある子どもを対象としたアンケート調査を実施し、計画の基礎資料としました。

調査内容

- 調査月:令和2年7月
- 調査基準日:令和2年6月1日
- 調査対象者:18歳未満で手帳をお持ちの人、自立支援医療(精神通院医療)、障害福祉サービス等を利用している人
18歳以上で手帳をお持ちの人、自立支援医療(精神通院医療)、障害福祉サービスを利用している人(65歳未満)
※65歳以上は介護保険が優先適用のため対象外としました。
- 調査項目:「基本属性」、「障がいの状況」、「相談窓口」、「生活の場」、「外出」、「健康・医療」、「災害」、「就労」、「福祉サービスの利用状況」等
- 回収方法:郵送による配布・回収

回収結果

18歳未満	配布部数	235件
	回収部数(回収率)	133件(56.6%)
	有効回答数	133件
18～64歳	配布部数	765件
	回収部数(回収率)	432件(56.5%)
	有効回答数	432件

調査結果の見方

- ① グラフ中の「n」の数値は、設問への回答者数を表します。
- ② 回答の比率は、全て小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。したがって、回答者比率の合計が100.0%にならない場合があります。
- ③ 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問については、全ての回答比率の合計が100.0%を超えることがあります。

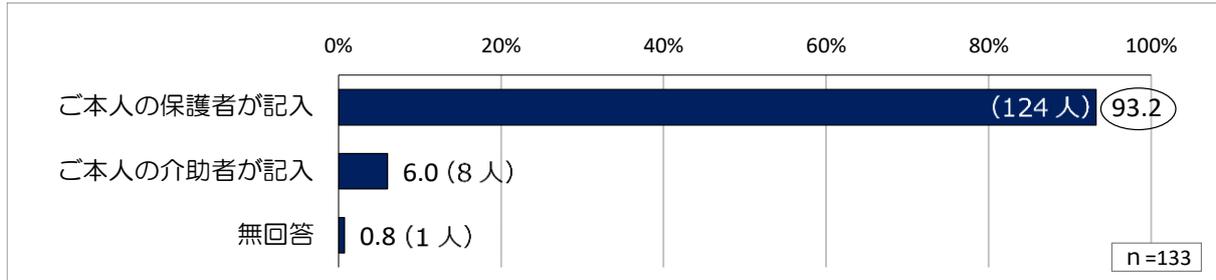
(2) アンケート結果の概要

① 回答者

この調査票の記入方法についてお答えください

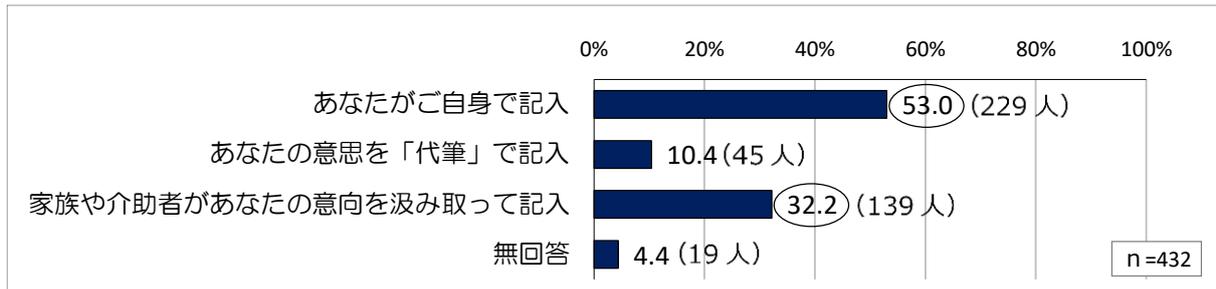
18歳未満では「ご本人の保護者が記入」が93.2%となっています。

●18歳未満



18～64歳では「あなたご自身で記入」が53.0%、「家族や介助者があなたの意向を汲み取って記入」が32.2%となっています。

●18～64歳

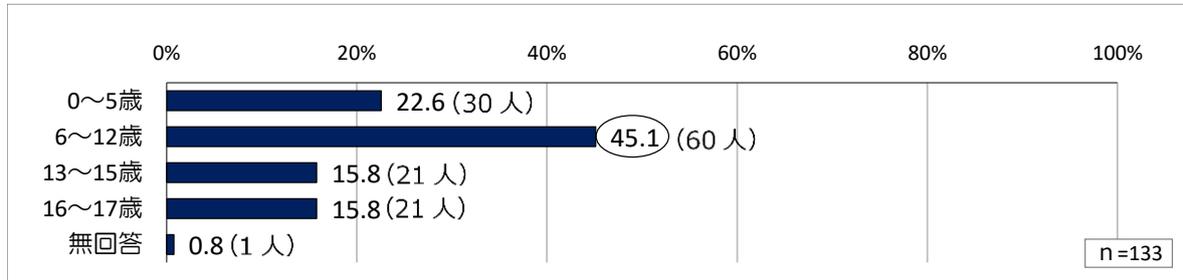


② 年齢

ご本人は何歳ですか

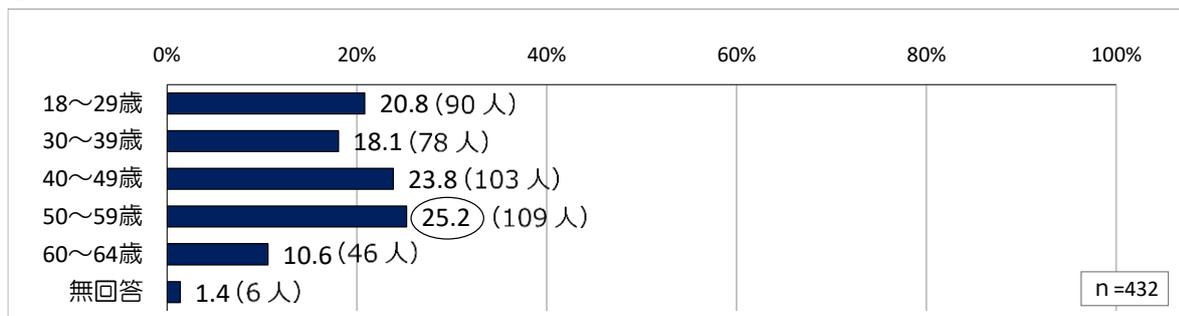
18歳未満については、「6～12歳」の割合が最も高く、45.1%となっています。

●18歳未満



18～64歳については、「18～29歳」「40～49歳」「50～59歳」の割合がいずれも20%以上となっており、最も高いのは「50～59歳」の25.2%となっています。

●18～64歳

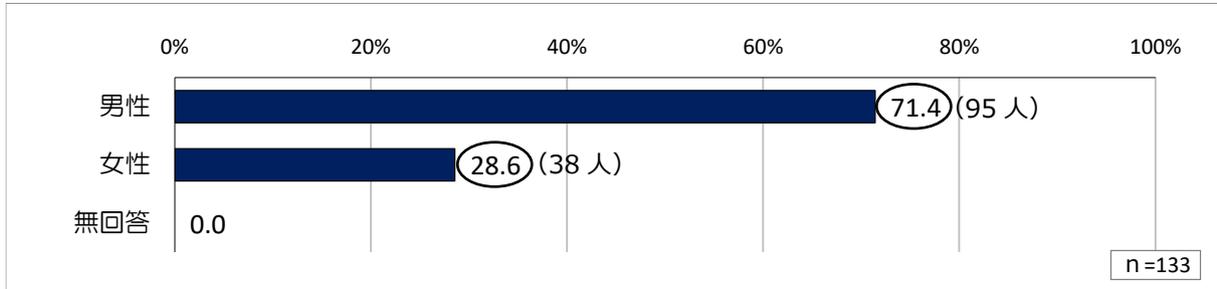


③ 性別

ご本人の性別はどちらですか

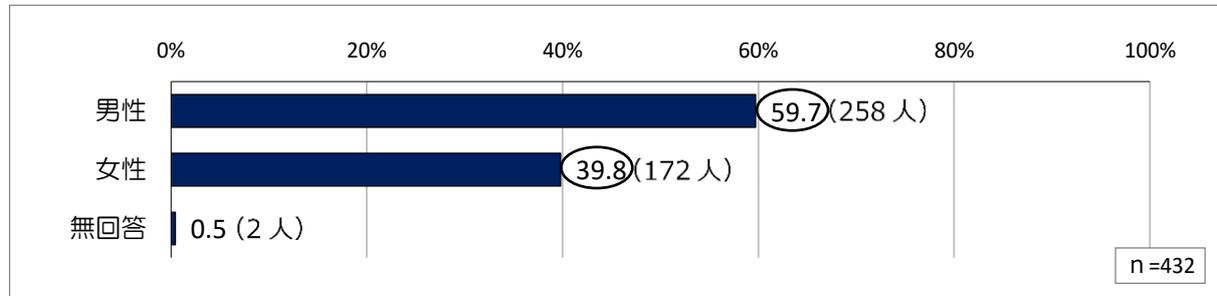
18歳未満では「男性」が71.4%、「女性」が28.6%となっています。

●18歳未満



18～64歳では「男性」が59.7%、「女性」が39.8%となっています。

●18～64歳

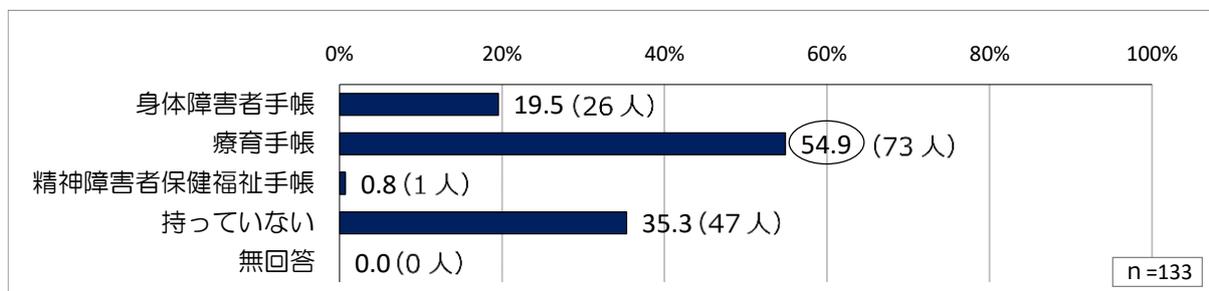


④ 手帳の種類

現在、お持ちの手帳の種類はどれですか(複数回答)

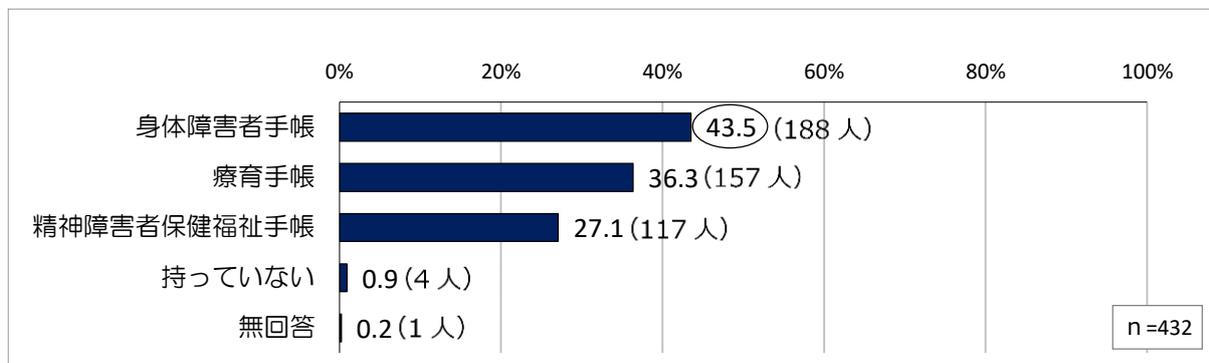
18歳未満では「療育手帳」が54.9%と最も高くなっています。

●18歳未満



18～64歳では「身体障害者手帳」が43.5%と最も高くなっています。

●18～64歳



⑤ 難病^{※9}(特定疾患)の認定の有無

これまで難病として診断されたことがありますか

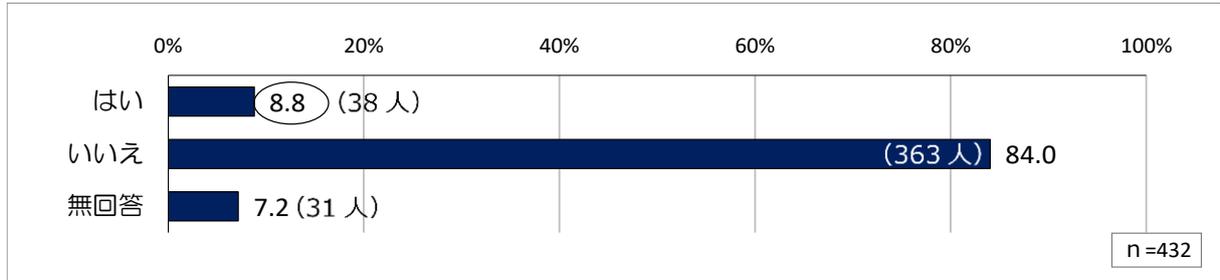
18歳未満では「はい」は8人(6.0%)となっています。

●18歳未満



18～64歳では「はい」は38人(8.8%)となっています。

●18～64歳



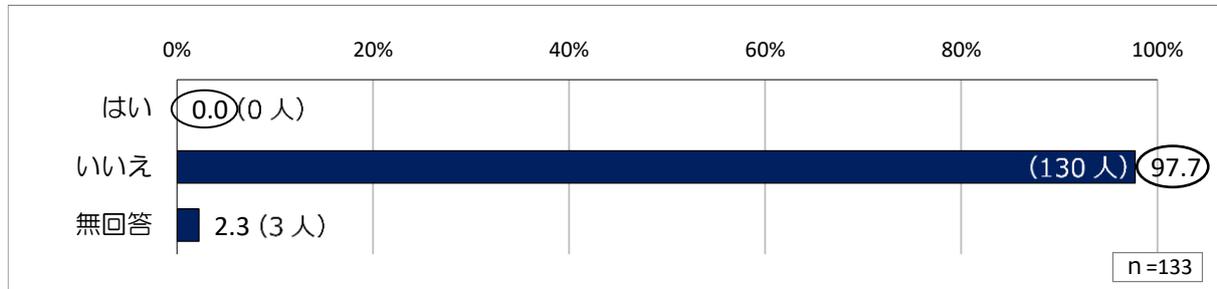
※9 難病…「資料編」116ページにて、用語を解説しています。

⑥ 高次脳機能障がい※10の診断の有無

高次脳機能障がいとして診断されたことがありますか

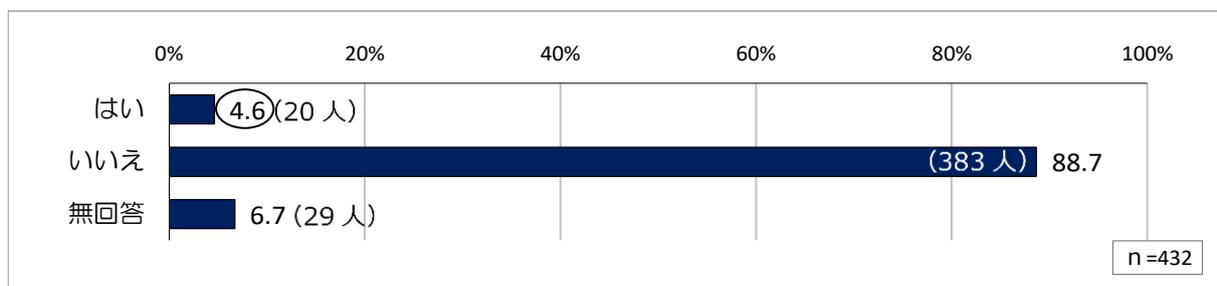
18歳未満では「はい」は0人(0.0%)、「いいえ」は97.7%となっています(無回答2.3%)。

●18歳未満



18～64歳では「はい」は20人(4.6%)となっています。

●18～64歳



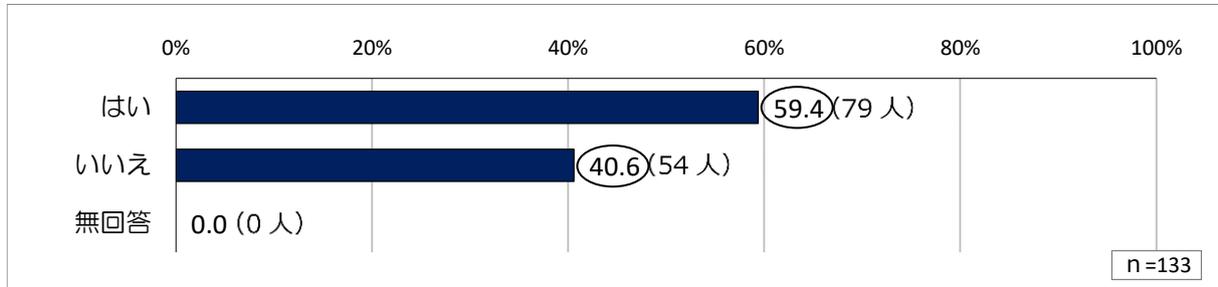
※10 高次脳機能障がい…「資料編」113ページにて、用語を解説しています。

⑦ 発達障がい※11について

発達障がいとして診断されたことがありますか

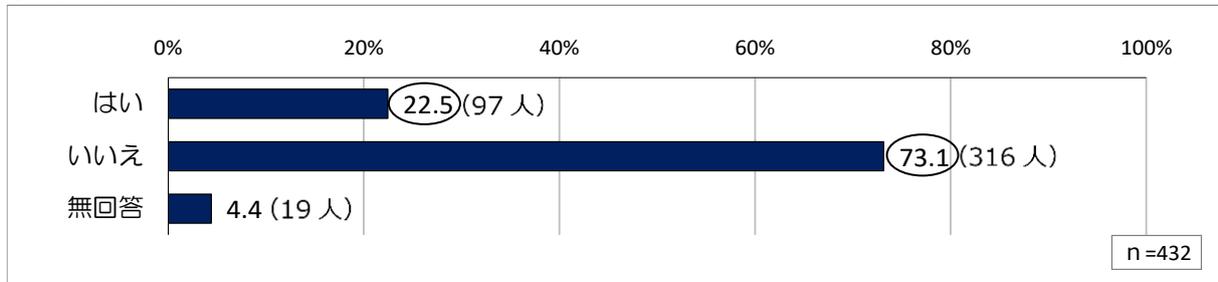
18歳未満では「はい」が59.4%、「いいえ」が40.6%となっています。

●18歳未満



18～64歳では「はい」が22.5%、「いいえ」が73.1%となっています。

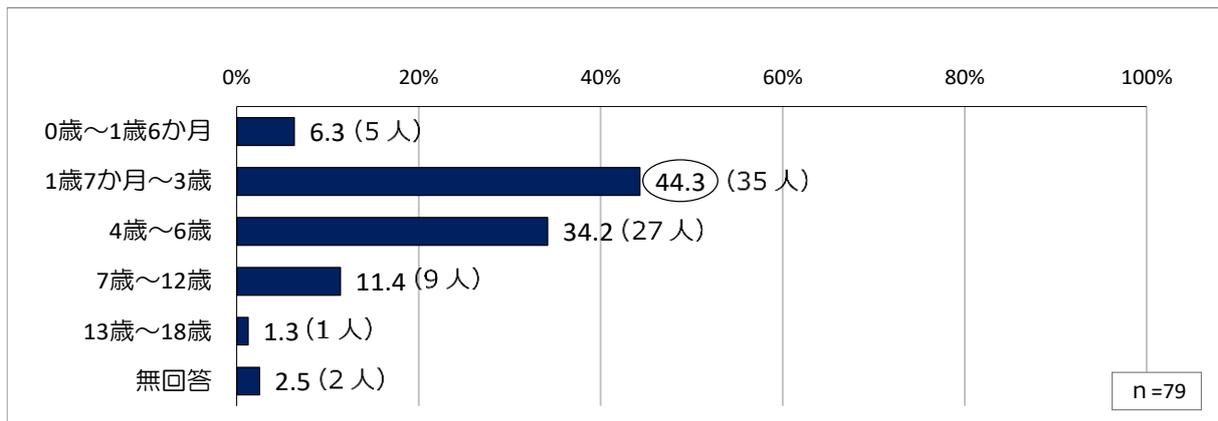
●18～64歳



18歳未満で「はい」(発達障がいと診断されたことがある)と回答した人のみ

発達障がいとして診断された時のご本人の年齢は何歳でしたか

「1歳7か月～3歳」が44.3%と最も高くなっています。

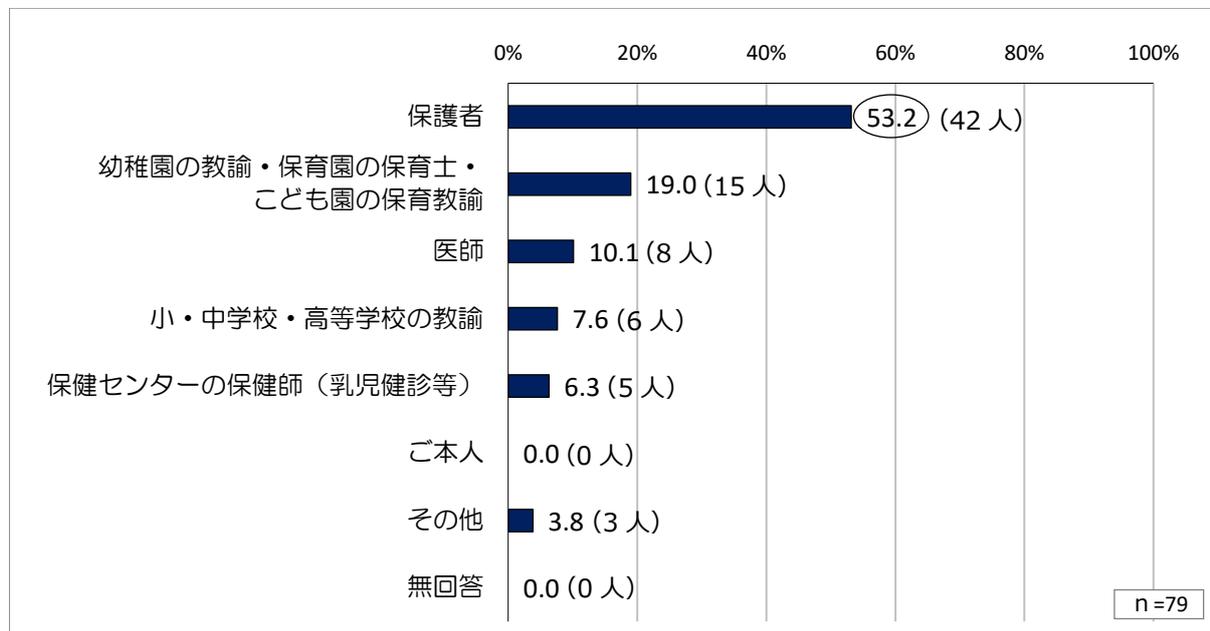


※11 発達障がい…「資料編」117ページにて、用語を解説しています。

18歳未満で「はい」(発達障がいと診断されたことがある)と回答した人のみ

発達障がいの特性に最初に気づいたのは、どなたですか

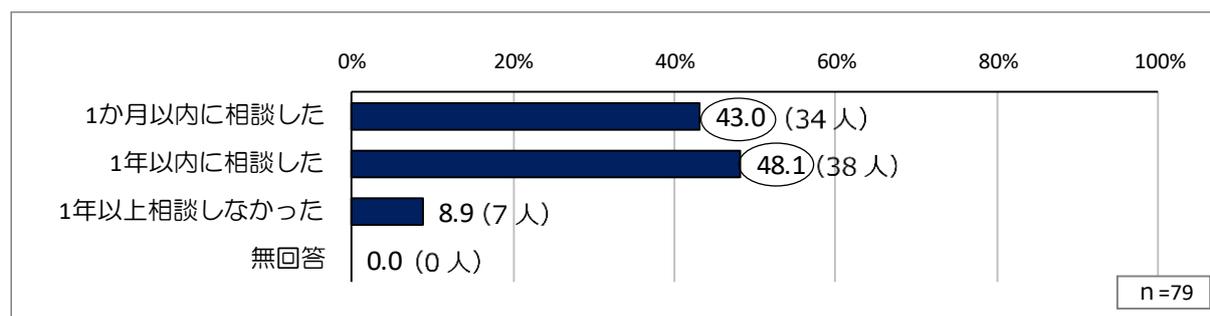
「保護者」が53.2%と最も高くなっています。



18歳未満で「はい」(発達障がいと診断されたことがある)と回答した人のみ

発達障がいの特性に気づいた時、専門機関等へ相談しましたか

「1年以内に相談した」が48.1%、「1か月以内に相談した」が43.0%となっています。

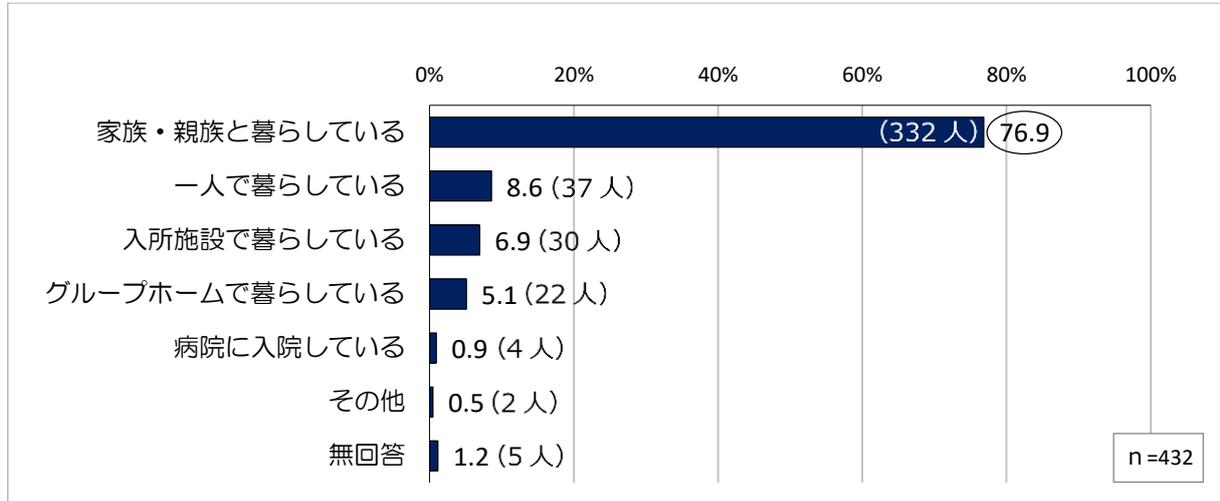


⑧ 暮らしについて

18～64 歳の人のみ

あなたは現在どのように暮らしていますか

「家族・親族と暮らしている」が76.9%と最も高くなっています。



18～64 歳の人のみ

あなたは、本市の福祉等に関する暮らしの「満足度」を上げるためには、どのような支援があればよいと思いますか(複数回答)

「経済的な負担の軽減」が60.0%と最も高く、次いで「相談支援の充実」が47.2%などとなっています。

